

テサロニケの信徒への手紙一

テサロニケの信徒への手紙一は、若く圧力を受ける教会を、感謝、牧会的弁明、聖さ、相互の励まし、亡くなった信徒への希望によって励まします。



解釈にもとづく再構成。この出会いは、手紙にある旅の言及だけから描いた再構成です。

年代・確度：本文で確かめられる

紀元50～51年頃

アテネ、コリント、テモテの移動の正確な順序は、使徒言行録と手紙から再構成されます。

場所・確度：本文で確かめられる

コリント

アテネ、コリント、テモテの移動の正確な順序は、使徒言行録と手紙から再構成されます。

前後の出来事

- ① 紀元50年頃 パウロは聖霊によってアジア州での宣教を禁じられる。トロアスでマケドニア人の幻を見て、「私たち」と記す区間が始まる。
フリギア→ガラテヤ地方→ミシア→アレクサンドリア・トロアス・本文で確かめられる
- ② 紀元50年頃 トロアス→サモトラケ→ネアポリスと航海し、内陸のフィリピへ。リディアが信じ、女奴隷が解放される。パウロたちは打たれて投獄され、看守が救われ、教会が生まれる。
サモトラケ→ネアポリス→フィリピ・本文で確かめられる
- ③ 紀元50年頃 パウロはテサロニケで3回の安息日にわたり論じ、何人かが信じる。ヤソンが当局者の前へ引き出される。
アンフィポリス→アポロニア→テサロニケ・本文で確かめられる
- ④ 紀元50年頃 高潔なベレアの人々は日々聖書を調べる。反対者が到着し、パウロは送り出される。
ベレア・本文で確かめられる
- ⑤ 紀元50年頃 パウロがアテネのアレオパゴスで演説——知られざる神、悔い改め、復活を論じる。
アテネ・本文で確かめられる
- ⑥ 紀元50～52年頃 パウロはアクラとプリスキラに出会い、会堂で論じ、1年6か月滞在する。
コリント・本文で確かめられる
- ⑦ 紀元51／52年頃 パウロはガリオンの法廷に引き出されるが、訴えは退けられる——年代上の基準点。
コリント・本文で確かめられる

本文から確かめられること

本文で確かめられる

テサロニケの信徒への手紙一は、若く圧力を受ける教会を、感謝、牧会的弁明、聖さ、相互の励まし、亡くなった信徒への希望によって励まします。

受取人は、反対に直面しながら希望をもって生きること学んでいた、比較的新しいテサロニケの教会です。

10分で紹介するための流れ

1. テサロニケの信徒への手紙一は、若く圧力を受ける教会を、感謝、牧会的弁明、聖さ、相互の励まし、亡くなった信徒への希望によって励まします。
2. この手紙はテサロニケでの設立宣教の後、コリントでのガリオンの審問の前に属し、伝統的にはテサロニケの信徒への手紙二が近くに置かれます。
3. コリント、西暦50～51年ごろは、第二次旅行の間にテモテがテサロニケから知らせを携えて戻った後という有力な再構成です。
4. 同じ第二次伝道旅行の背景を保ちながら、パウロのコリント滞在中の少し早い時期または遅い時期に手紙を置く年表もあります。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, *An Introduction to the New Testament* (Doubleday, 1997). — 第18章「テサロニケの信徒への手紙一」：「メッセージの全体的分析」
この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, *Paul: A Critical Life* (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」
この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/1-thessalonians>



考える別の読み方

同じ第二次伝道旅行の背景を保ちながら、パウロのコリント滞在中の少し早い時期または遅い時期に手紙を置く年表もあります。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。